Osaka University Knowledge Archive

Title	忍頂寺文庫・小野文庫の研究 : 二〇一〇年度
Author(s)	飯倉, 洋一
Citation	忍頂寺文庫・小野文庫の研究5. 2011, p. 5-7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/47714
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

忍頂寺文庫・小野文庫の研究

―二〇一〇年度―

飯倉洋一

大阪大学大学院文学研究科共同研究（人間文化研究機構国文学研究資料館研究連携事業）「忍頂寺文庫・小野文庫の研究」二〇一〇年度の研究成果報告書を刊行する。

昨年度に引き続き、本事業は、大阪大学文学研究科の科長裁量経費（本年度は四〇万円）から拠出していただいている。本研究連携は今年度限りで終了する。

本年度の研究目的には次の８項目を掲げた。

1　忍頂寺文庫全点の書誌調査のチェック、入力、版下作成、刊行。
2　小野文庫所蔵忍頂寺務宛書簡の調査（継続）。
3　忍頂寺文庫・小野文庫所蔵全点の蔵書印調査（継続）。
4　忍頂寺文庫所蔵の洒落本テキストデータベースの拡大。
5　忍頂寺文庫所蔵の善本稀書について調査・研究。
6　「忍頂寺文庫・小野文庫の研究」研究会の開催。
7　『忍頂寺文庫・小野文庫の研究５』（本報告書）の刊行。
8　「忍頂寺文庫・小野文庫の研究」公式ホームページの運営。

1は、本共同研究最大の目標であった。種々の事情で完成が遅延していたが、共同研究最終年度となる本年度に、大阪大学附属図書館研

究開発室事業として、忍頂寺文庫目録作成の予算が認められたため、遂に刊行の運びとなった。大学院生が採取したデータに基づいて版下を作成し、それを飯倉が全点（一九九〇点）原本と照合チェックの上、再入力した。それをさらに本共同研究員および後述する公募研究メンバーと大学院生（入力補助）あわせて一二名が二日間にわたり、全点原本照合チェックをし、入朱・入力を行った。その後、大学院生に版下の整備を依頼し、校正を経て、索引を作成した。結果、カラー口絵（四頁）、附属図書館長序文、凡例、本文・索引・後記をあわせて、B5判一三六頁の『大阪大学附属図書館所蔵　忍頂寺文庫目録』が完成した。この報告を書いている時点では校正中であるが、三月中には刊行される予定である。

2については内田宗一氏が、3については青田寿美氏が、継続して調査にあたり、完了した。本共同研究は、人間文化研究機構国文学研究資料館公募研究「近世風俗文化学の形成―忍頂寺務草稿および旧蔵書とその周辺―」（代表者　飯倉洋一）と密接な関係を保ちつつ進めているが、2・3の成果については、公募研究の報告書に掲載される予定である。

4については、依田恵美氏を中心に作業が進められた。本年度は八作品の翻字データ、解釈データの作成とホームページ上での公開が、三月中には行われる。二〇〇八年度から開始されたこのデータベースは、通算二五作品が公開されることになる。

5については、川端咲子・正木ゆみ両氏による『開帳おどけ　仮手本忠臣蔵』の研究の続編が本報告書に掲載されている。また、合山林太郎氏が鷲原知良氏の協力を得て、忍頂寺文庫所蔵の漢詩文関係の調査を行い、本報告書に連名で解題を執筆している。ここで取り上げた本は、来年度春のいちょう祭展示会（大阪大学総合図書館において開催）で展示される予定である。なお前年度は、浜田泰彦氏による一荷堂半水の唄本の解題を掲載したが、これらも本年度のいちょう祭展示会で、展示された。

6については、前回の報告書に触れられなかった二〇〇九年度事業である二〇一〇年三月の研究会と、本年度事業である二〇一〇年一〇月の公開シンポジウムについて記しておく。いずれも公募研究との合同開催である。

二〇一〇年三月一三日（土）の研究会は、一三時三〇分より大阪大学豊中キャンパス文法経講義棟文12講義室で行われ、参加者二〇名であった。次の二本の発表が行われた。

1　浜田泰彦　西鶴輪講における忍頂寺務―『懐硯』輪講を中心に―

2　福田安典　江戸風俗文化学忍頂寺型形成過程モデルの提唱―務と江戸文学輪講―

浜田氏の発表内容は本報告書に掲載されている。福田氏の発表は、シンポジウムでの報告へと繋がるものである。

二〇一〇年一〇月三〇日（土）の公開シンポジウムは、「近世風俗文化学の形成―忍頂寺務と忍頂寺文庫・小野文庫―」と題して、一四時より大阪大学大学院文学研究科本館2階大会議室で行われた。同時に忍頂寺文庫・小野文庫の資料展示を行った。本シンポジウムには、忍頂寺務の実孫であられる忍頂寺晃嗣ご夫妻を初めとして、忍頂寺家ゆかりの方々（八名）が聴講に来られた。また二〇〇九年三月六日の研究会で、「忍頂寺務の著作を集める」というご講演をしていただいた肥田晧三先生も参加された。

内容は以下の通りである。

基調報告　武井協三　忍頂寺文庫の芸能資料―『女意亭有噺』を中心に―

個別報告　内田宗一　書簡資料から見る忍頂寺務

福田安典　近世風俗文化学―忍頂寺務型モデルの提唱―

三氏の報告のあと、飯倉の司会でパネルディスカッションが行われた。忍頂寺晃嗣氏のご発言や、肥田先生の貴重なご教示などもあって、非常に有意義なシンポジウムとなった。

また本年度は目録作成のため、二〇一一年一月九日・一〇日の連休にも研究会を開催した。目録本文のチェックを行うのが目的であるが、忍頂寺文庫の全ての資料を再認識することで、本共同研究の締めくくりとする意味もあった。

7は本報告書、8はウェブサイト（http://www.let.osaka-u.ac.jp/~iikura/Ninjoji_Ono/index.html）をご参照いただきたい。

本報告書および『忍頂寺文庫目録』の刊行をもって、準備期間を含めると六年間の共同研究を終える。共同研究員のメンバーおよび、協力を惜しまれなかった本学の日本文学・国語学の院生諸氏、とりわけシンポジウムの運営と目録作成に献身的に尽力してくれた山本悠子氏に深謝申し上げる。

（二〇一一年三月一日記）